



松村 慶次議員

職員の給与格差の 是正について

問 和水町の財政状況は極めて厳しく、税収増加対策と歳出の見直しは喫緊の課題であるが、茲許、全国の自治体で地方公務員給与に対する住民の注視が高まっている。事実、和水町でも職員人件費比率は常に最大であり、給与水準や定員管理を誤れば、夕張市と同じ道をたどり兼ねない。同時に、和水町の安定と成長の為に、職員の高いモチベーションに支えられた全力投球が必要であり、良い和水町を創造する為には、全ての職員が公僕の原因に立返り、町民を導く旗振り役としての業務責任を果たして行くことが最も重要であり、第一歩である。従って、適正な総人件費率、職員のモチベーション、町民の理解と支持に裏打ちされた公正な理念と人事が強く求められるものである。そこで、昨年9月定例会で和水町

職員給与のラスパイレース指数と旧町間の格差是正が論じられ、執行部から「19年度より旧菊水町、旧三加和町職員給与格差の是正を具体的に進める」との答弁が為されたが、

是正を進める前提として、現在の和水町の体力に鑑み町職員の給与水準は「公正」と云えるのか、職員の仕事内容と成果の評価は「公正」なのか、を是非問い直していただきたい、この解決には初代町長のリーダーシップと調整手腕が期待される処である。和水町の給与水準とラスパイレース指数はどうなのか、旧町間で職員給与格差はあるのかないのか、あるならば如何に是正するのか、改善状況はどうなのか、について町長に伺う。

答 和水町のラスパイレース指数は(92・4)となっており、県内の市町村平均が(95・5)町村平均は和水町と同じく(92・4)になっている。また平成17年度調査では、旧菊水町が(90・3)旧三加和町が(93・5)と3.2ポイントの差があり、勤務年数にして4年程度の格差があると認識している。この是正については、今年1月の昇級から取り組みを開始し、4年から

5年は掛かるとみている。

問 職員にとつては働く対価としての給料は重要であり、この是正が4～5年ではなく、もう少し前倒しの完結ができないものか伺う。

答 できるだけ1年でも早くと努力して参りたい。

答 (総務課長) 給与体系自体が昨年から変更になっており、短期間での完結は困難であるが、最も格差がある場合でも4～5年を掛けて是正したいという考えでいる。

有明広域行政事務組合第2清掃センターの今後の計画について

問 (1) 今後の計画はどのようなになっているのか。

答 第2清掃センターも平成14年12月ダイオキシンの規制法により運営停止、その後は有明広域行政事務組合において管理となる。1市3町で運営するグリーンパークファイブは平成18年5月より操業開始となり、第1清掃センター(長洲)第2清掃センター(旧菊水)の施設は、解体撤去の方向で進められる。18年度で解体撤去の申請が認可される。解体費用については莫大な費用を要する為1市3町(旧5町)で基

金積立を行う事に決定、しかし一刻も早く処理しなければならぬ、焼却灰の除去は、19年度で、最終処分場へ移設する。移動費用、1200万円程。



有明広域事務組合『第2清掃センター』施設

問 (2) 取壊しの費用はどのくらいかかるのか。

答 第1清掃センター焼却炉30t、第2清掃センター焼却炉20tの取壊し規模となる。費用については、合わせて2億5千万円程度と見込まれる。費用節約の目的により両施設同時期に行い、平成23年に取壊し着手予定。

基本的には解体終了後の土地は更地が原則であるが、今後地元との協議を進める。

問 (3) 施設を利用して肥育、酪農、養豚、養鶏、生ごみ等、生産者の共同堆肥舎として有効利用が出来ないか、考えを伺う。

答 有効利用出来ないかと言う事については、施設に関する規制が有るので、なかなか厳しいものがあるのではなからうか、あまりにも膨大な施設であるので、その活用に関してはいかがなものかと思う。他の施設で利用できる所、ビン、缶を収集場として使用していた小規模施設に対しては、農業機械等の収納庫として、組合組織をもって弊害が無い施設に関しては、出来るだけ有効利用出来るように努力する。





坂本 政光議員

地域の安全対策について

問 本格的な梅雨期となり、菊池川流域住民は、大雨洪水警報発令のたび毎年不安と心配が募ります。

過去4回大災害を経験しております。河川改修は大藤地区を除き、改修が完了しております。西地区は圍場整備による洪水防除施設（排水機）が完備され、今日大きな役割を果たしており、生活の安全を守っております。

しかし内田川においては、左岸部堤防高不足による浸水の不安があります。

又、川床に葦が大繁殖して、土砂の流出をせき止め、周辺けい流より土砂が流れ込み、川床面が上昇し水の流れを阻んおります。

早期に葦及び土砂の除去による災害の未然防止策が必要です。又、県道大牟田・植木線・玉名―立花線の早期改良（内藤橋改築工事）を含めて、

県当局への積極的な陳情を要望するものです。町長の考えをおたずねします。

答 内田川の掘削と合わせ、左岸部、玉名―立花線の一部低い部分に、非常用土のう袋の常設を要望しました。

川床掘削はどの河川でも見られるところですが、土砂が溜まっている部分を除去し災害の未然防止を図る事は可能ですので、県当局に要望しております。

内藤橋の架け替えは、県当局より関係地区への、計画説明会を開催するとの連絡を受けております。

地元区長と協議の上、日時を設定し説明会を開催します。（7月3日～4日関係地区説明会が開催されました。）

大藤地区の河川改修についても一部着工（高速道路―県道間）の堤防改築と樋門一基の設置が予定されています。8月中旬に事業説明会を実施したいとの連絡を受けています。事業推進に当たっては、住民の皆さんの協力をお願いいたします。



内藤橋全景

町政懇談会について

問 前年度に引き続き、本年度は校区単位の懇談会を実施されましたが、その成果について伺う。

又、意見要望等については、今後どの様に対応されるのか町長の考えを伺う。

答 対話による町づくりを、政治姿勢としておりますので、町民の皆さんとの対話集会は今後も継続的に実施していきます。

今回は昨年の反省を踏まえて小学校単位で開催したところです。結果として参加者の皆さんから直接意見を伺う事が出来て良かったと思っております。

成果としては、参加者数が昨年192名から今回は301名と増え町づくり総合計画や町の事業内容等を詳しく説明出来たと思っております。

又、地域の身近な課題、意見等を聞かせていただき、地域の特性や特徴を知る事が出来ました。

会場でアンケート調査に記述された意見・要望については、関係各課に即対応する様に指示しました。

今回の件を総括しますと、全般的に参加者が少ない、しかし前年より100名は多かった訳でありますので、次年度においては今年度の反省を踏まえて一段と充実した懇談会になる様、次年度は良かったと言える様に取り組んでまいります。



町政懇談会風景

